

# 3病変同時多発した 胃底腺型胃癌の1例

消化器病理カンファレンス  
肝胆膵消化器病学

# 症例：40歳代 男性

## 【現病歴】

健診の上部消化管造影検査で胃体上部大弯側に隆起性病変が疑われた。

近医で上部消化管内視鏡検査を施行され、胃体部大弯側後壁、大弯側、大弯側前壁に山田Ⅳ型ポリープを認めた。そのうち大弯側から生検施行され、組織診断分類でAdenocarcinoma(tub1)の診断となった。

精査加療目的に当院当科紹介受診された。

## 【アレルギー】

食物:なし

薬剤:なし

## 【既往歴】

高血圧症

## 【薬剤歴】

アムロジピンベシル酸塩5mg 1錠分1

テルミサルタン40mg 1錠分1

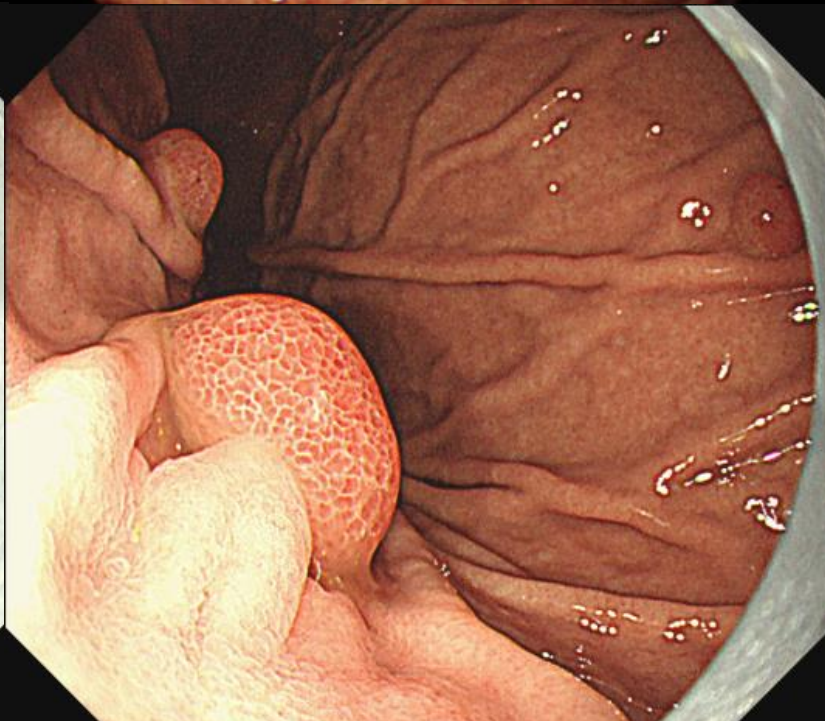
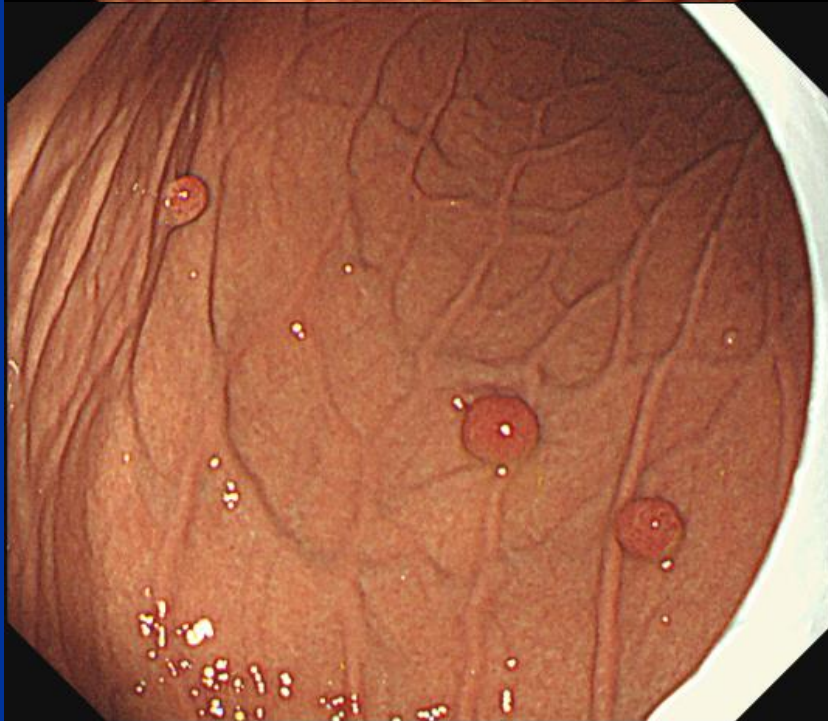
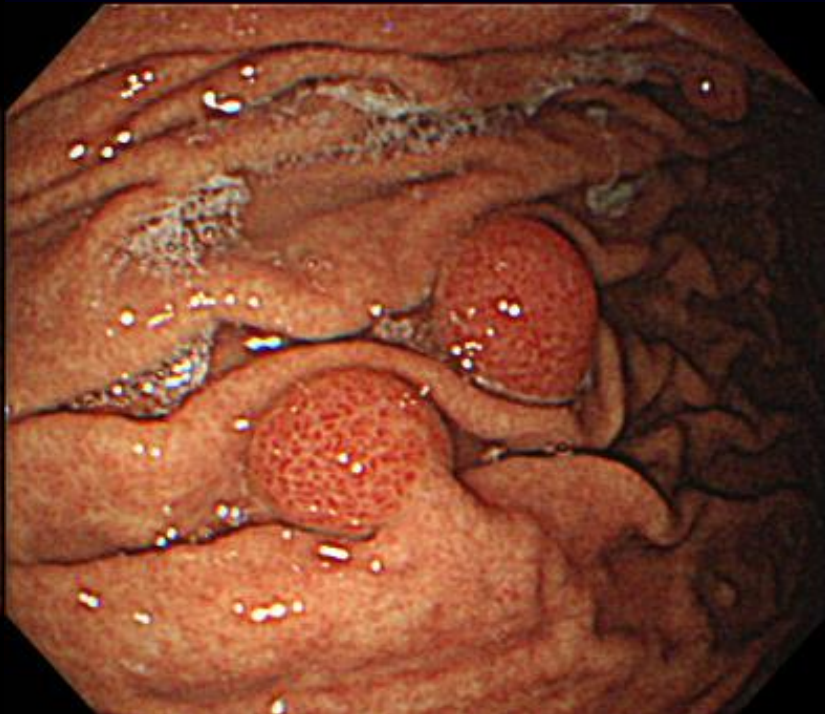
## 【嗜好】

飲酒:焼酎1合/日、喫煙:禁煙中(25年前10本/日)

# 血液検査

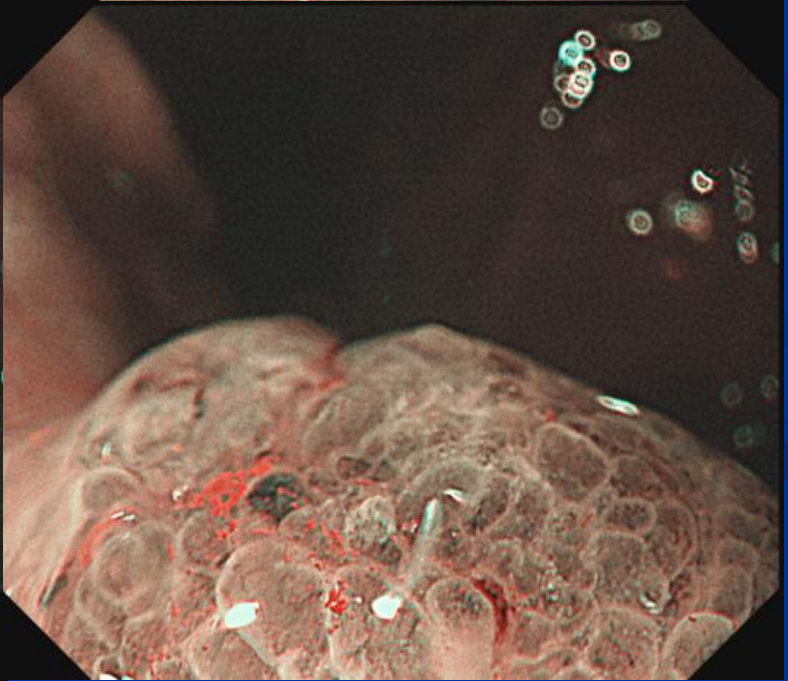
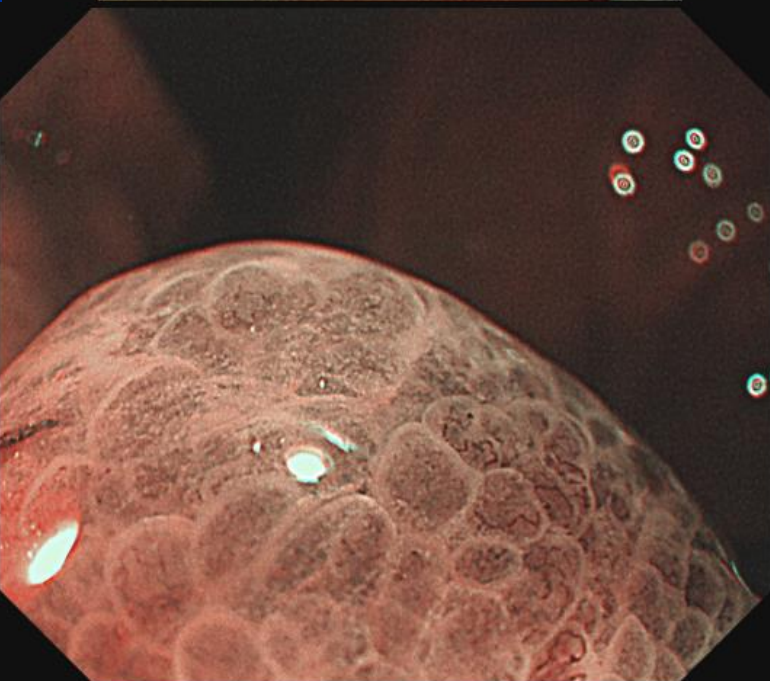
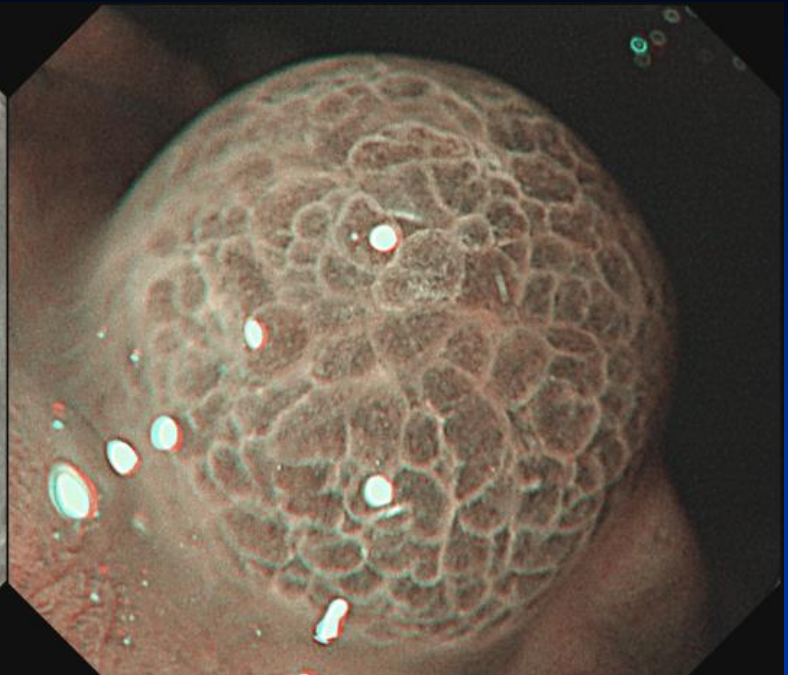
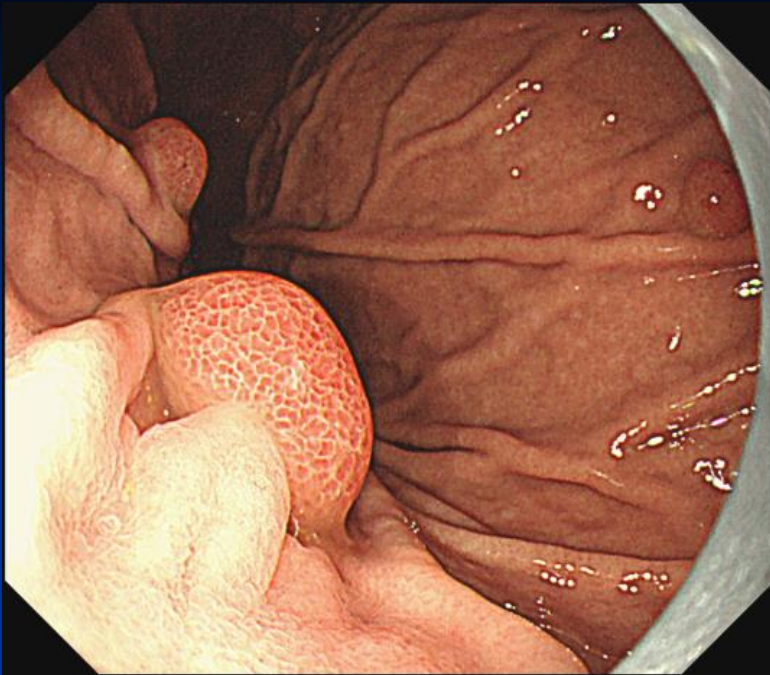
Hematology			Biochemistry					
WBC	5800	/ $\mu$ l	TP	7.6	g/dl	AMY	56	IU/l
Hb	13.0	g/dl	Alb	4.8	g/dl	Glu	101	mg/dl
Hct	38.0	%	AST	42	IU/l	CRP	0.05	mg/dl
MCV	104.2	fl	ALT	30	IU/l	CEA	1.7	ng/ml
MCH	35.7	Pg	LDH	155	IU/l	CA19-9	8	U/ml
MCHC	34.2	%	ALP	202	IU/l			
PLT	51.1	$\times 10^4$ / $\mu$ l	$\gamma$ -GTP	125	IU/l			
			BUN	9	mg/dl			
			Cr	0.59	mg/dl			
Coagulation			Na	143	mEq/dl			
PT-INR	0.98		K	4.2	mEq/dl			
APTT	33.4	Sec	Cl	104	mEq/dl			
			Ca	9.7	mg/dl			
			T.Bil	1.8	mg/dl			
			D.Bil	0.2	mg/dl			

# 上部消化管内視鏡検査

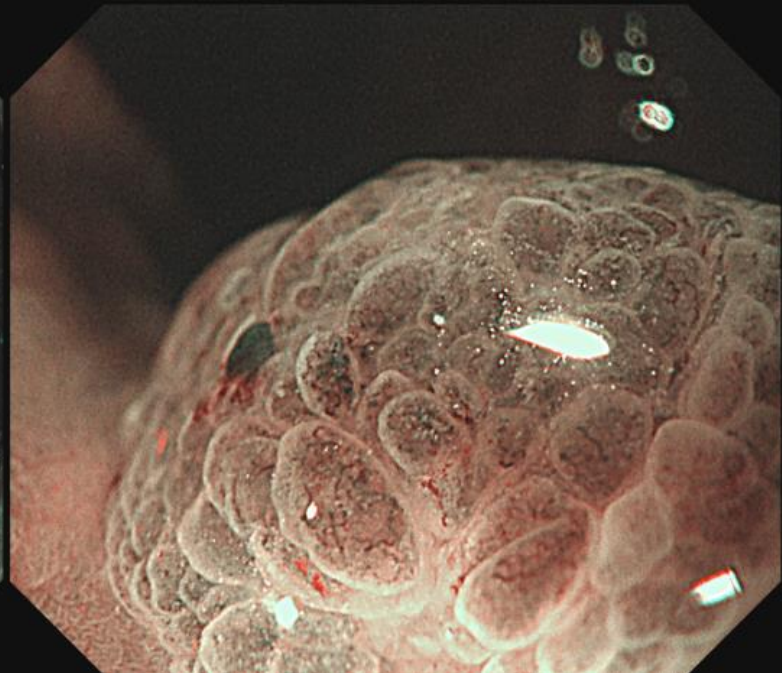
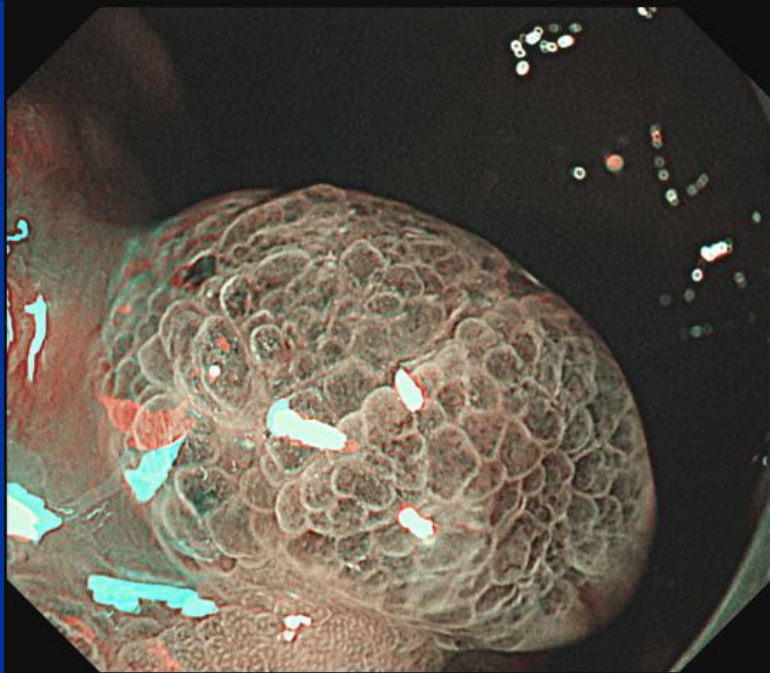
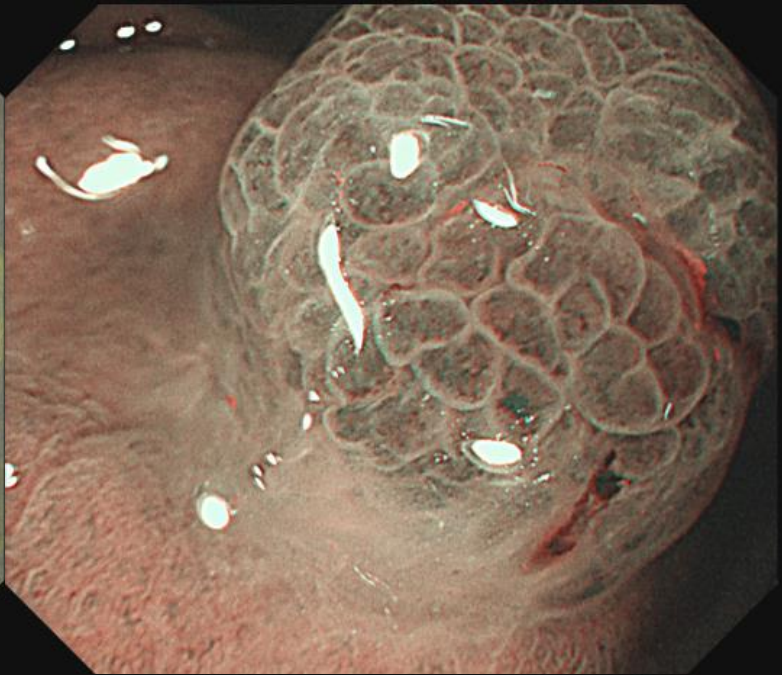
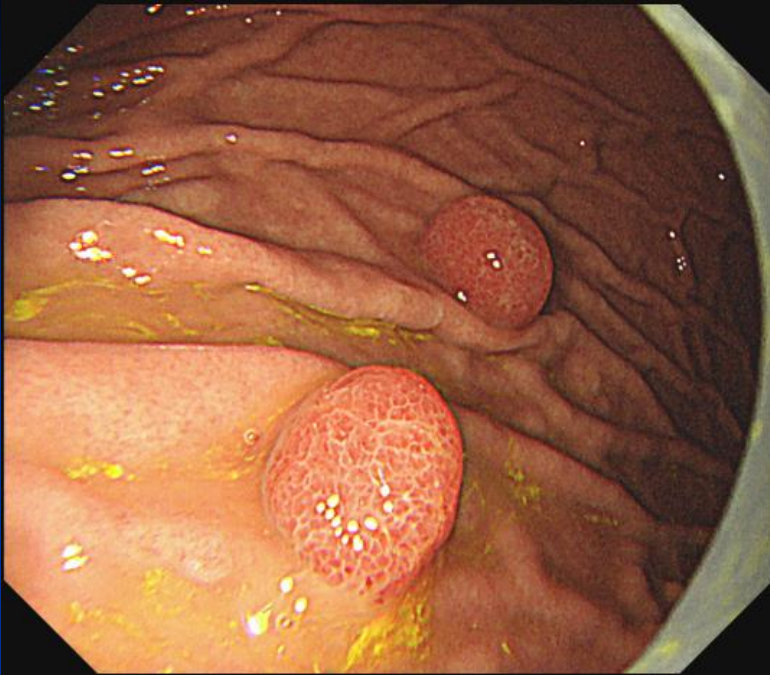


# 拡大内視鏡検査

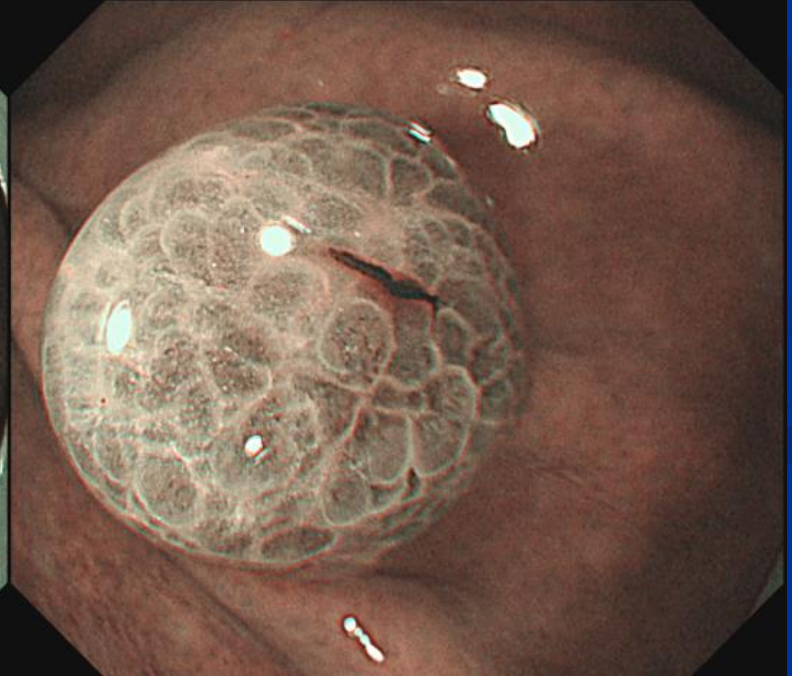
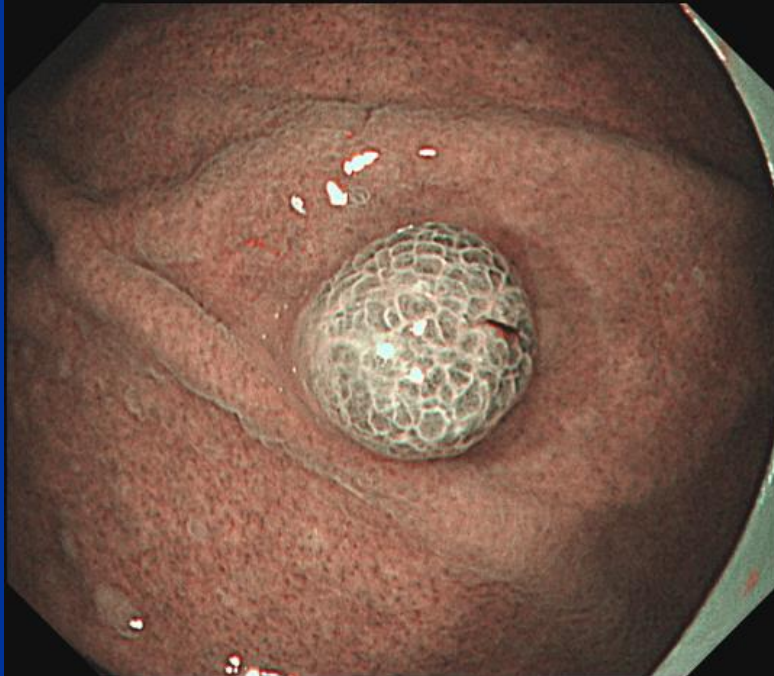
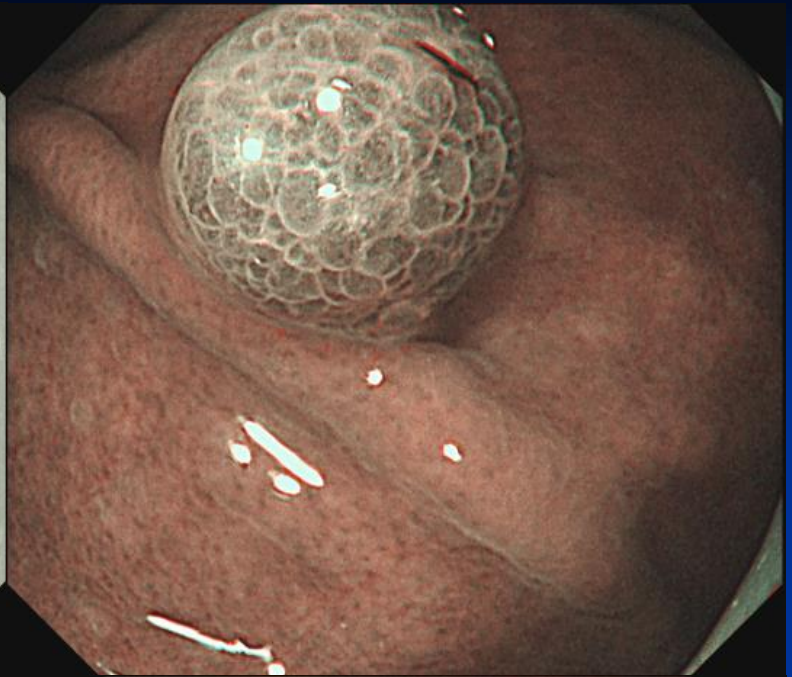
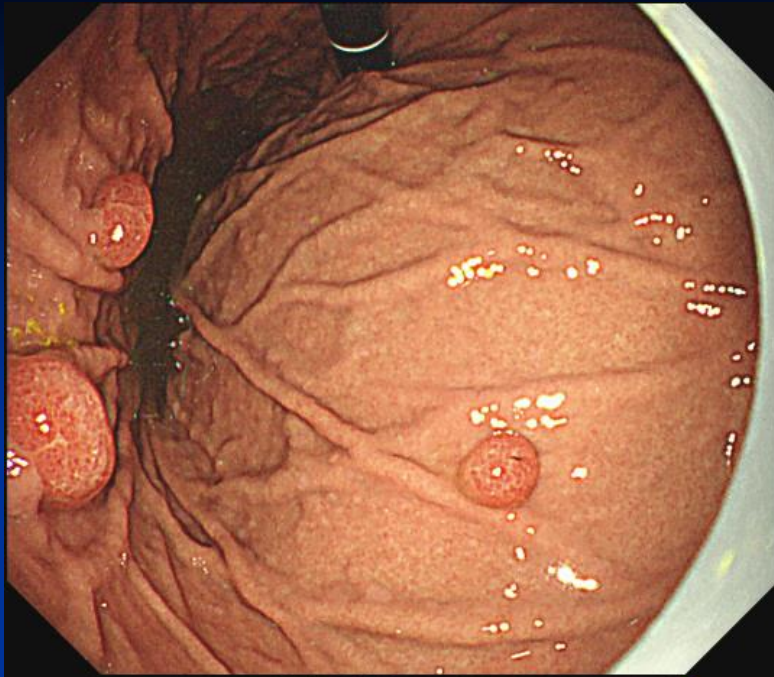




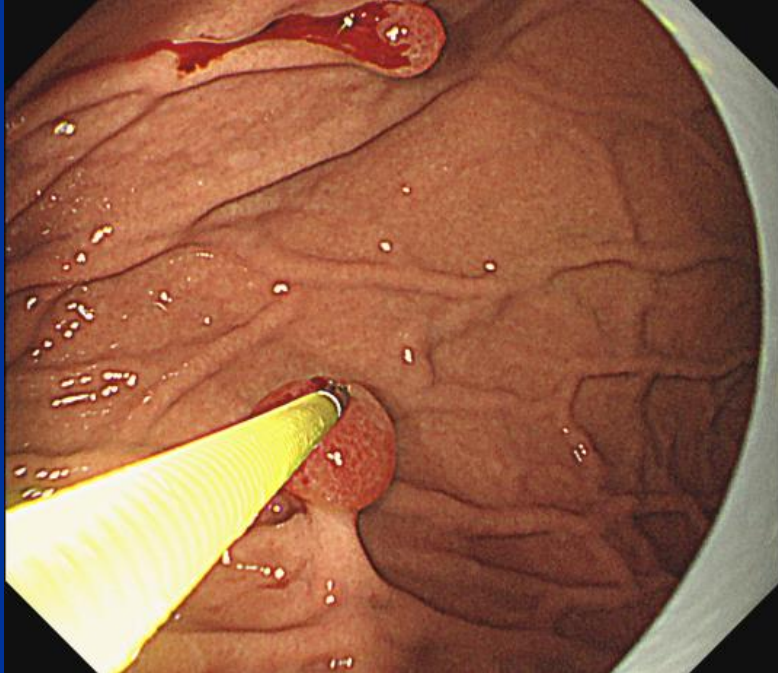
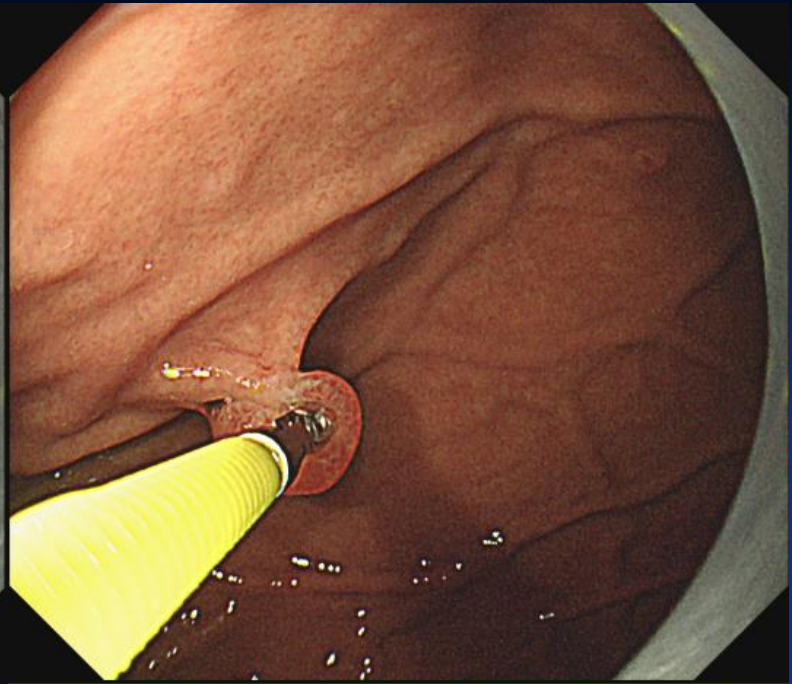
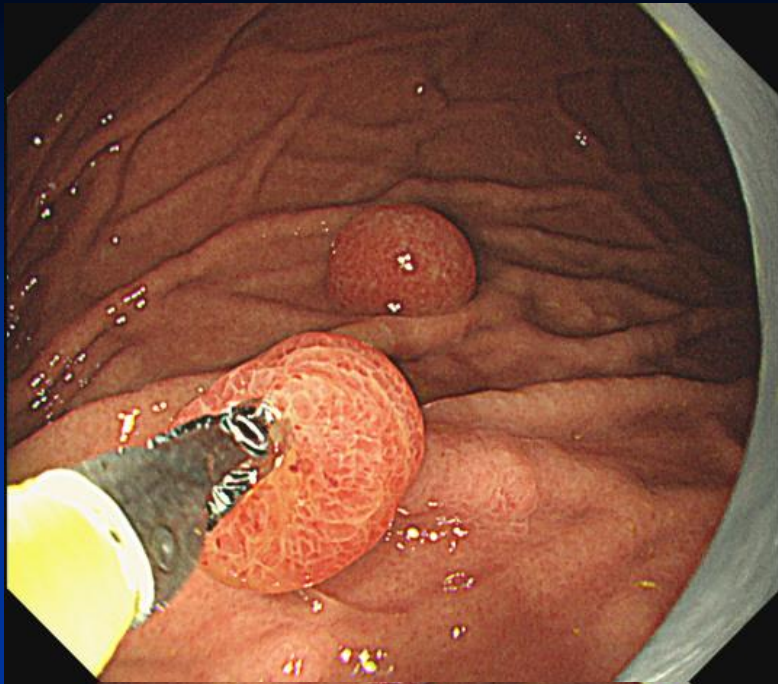








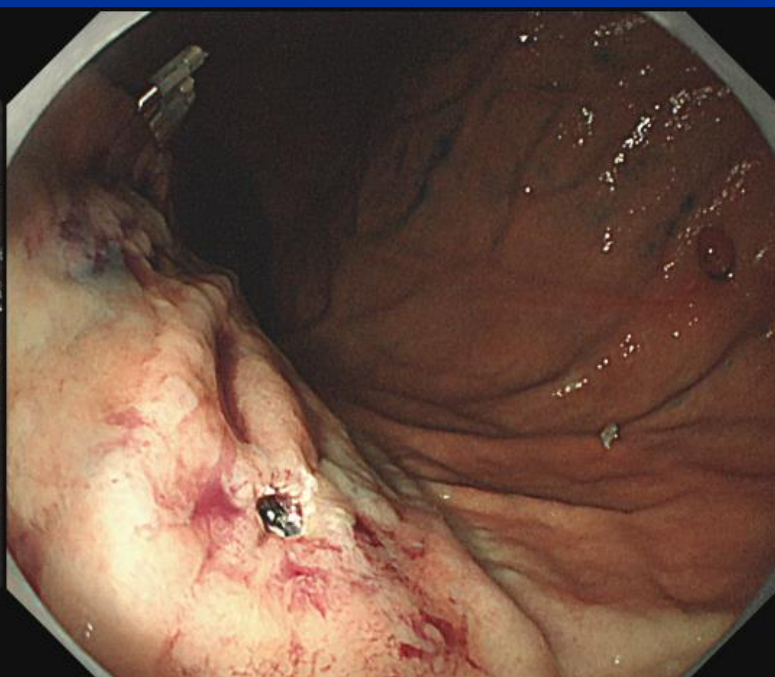
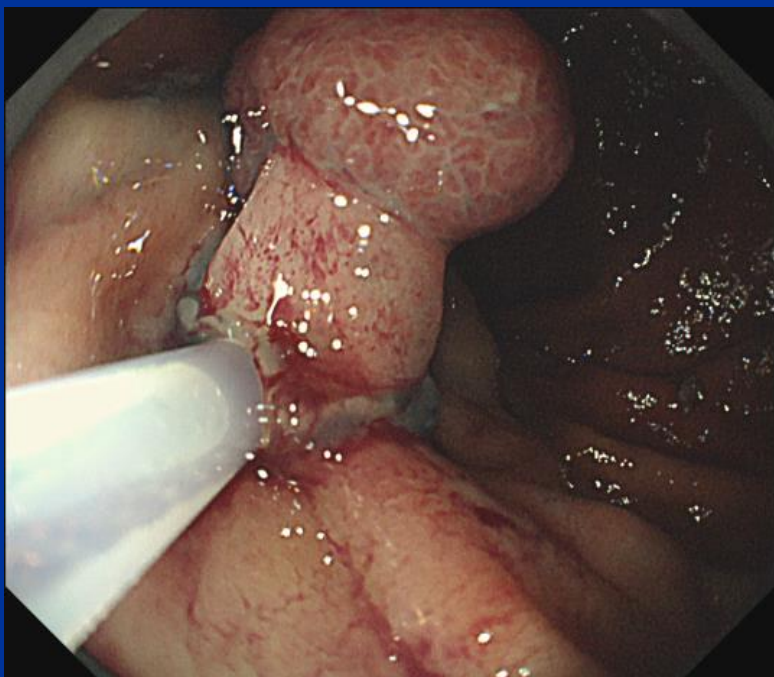
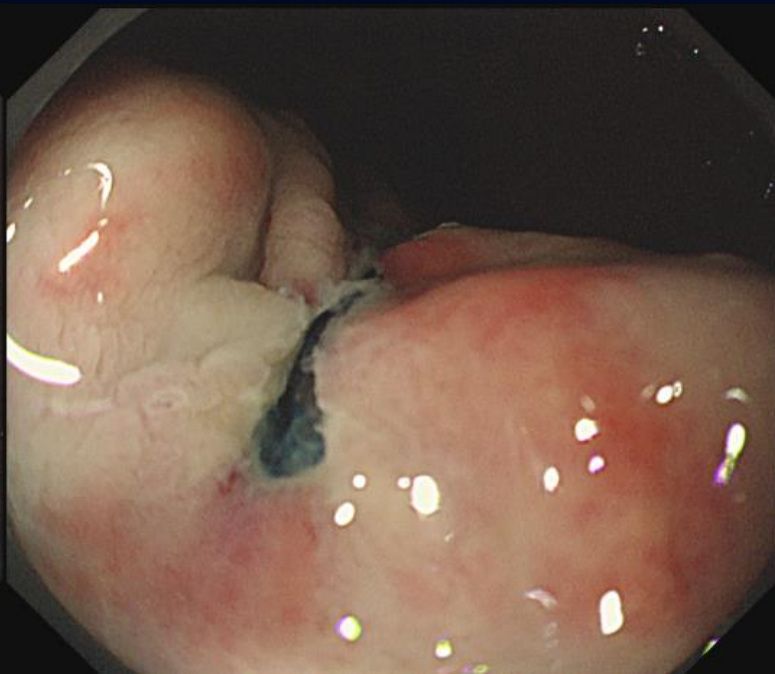
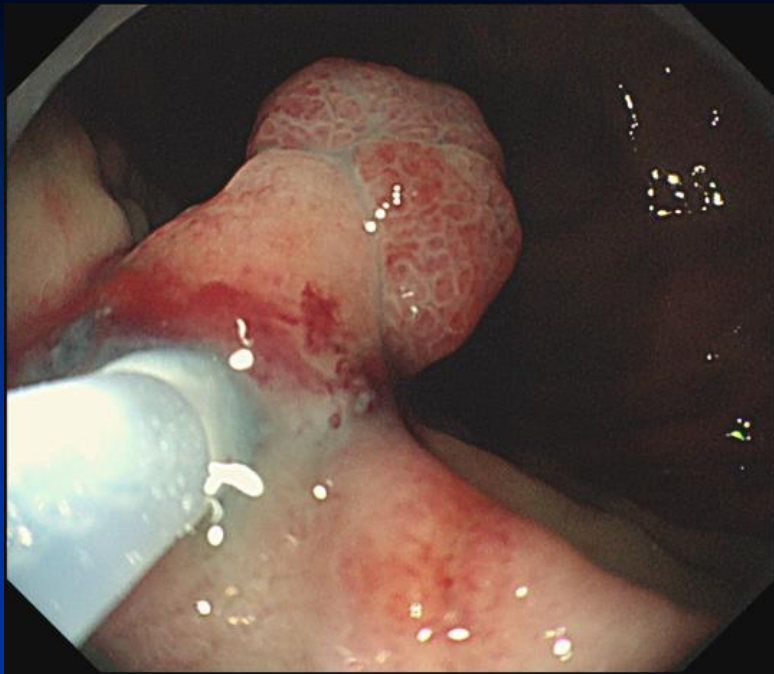




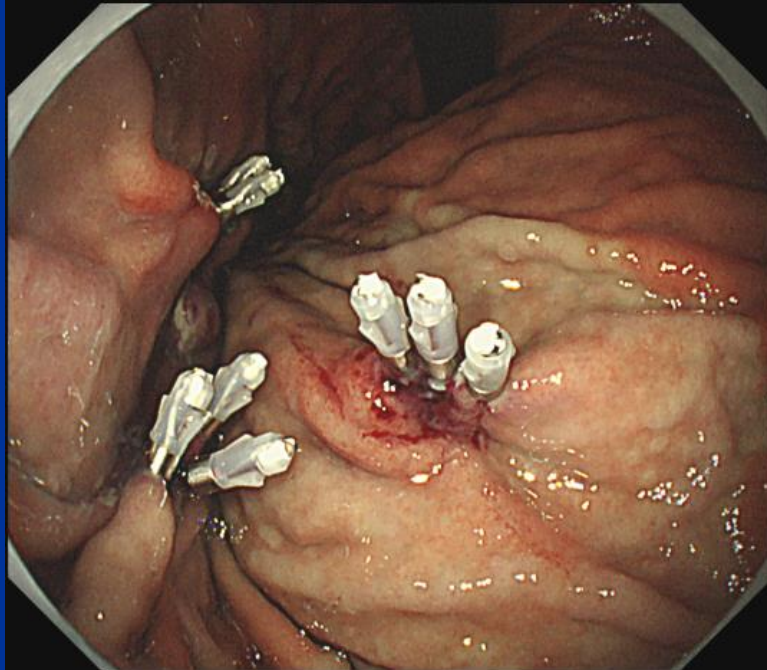
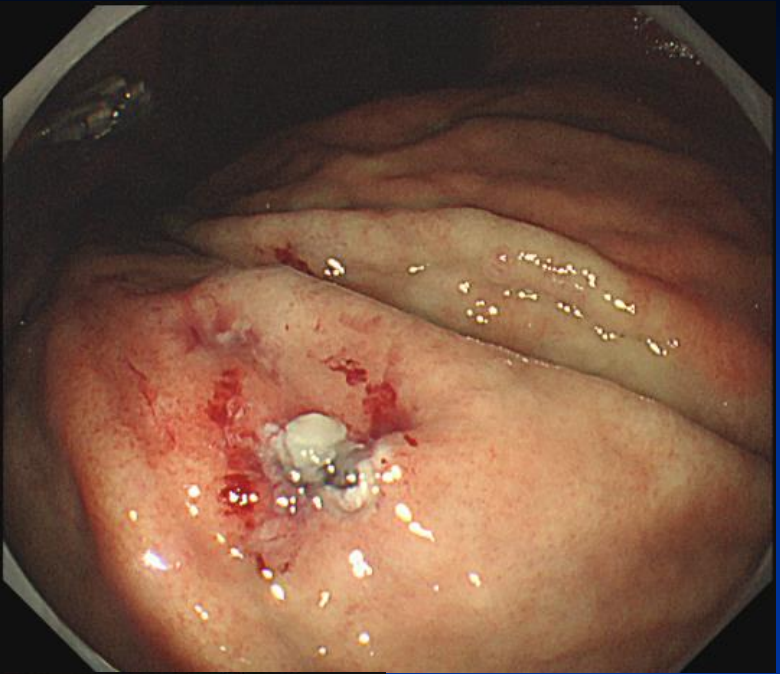
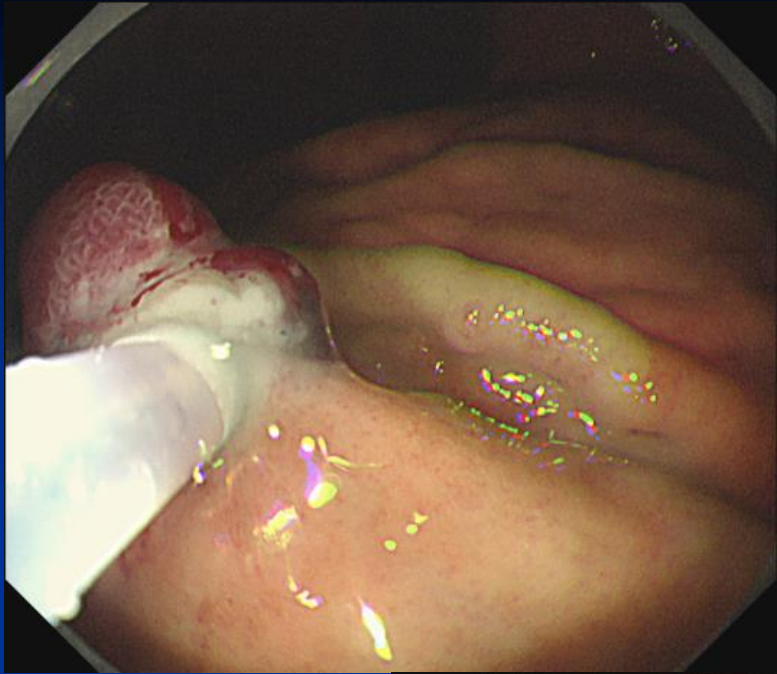
3病変ともに生検施行  
→生検結果はいずれもGroup 2の診断

# 治療方針

→ 内視鏡的粘膜切除術







# 最終病理診断

→ 3病変ともに

Tubular adenocarcinoma

(tub1、pT1a(M)、UL(-)、Ly 0、V 0、pHM0、pVM0)

# 胃底腺型胃癌

- H.pylori(以下HP)未感染胃癌の一つと考えられている。
- 頻度は約0-1%前後との報告がある。
- 胃底腺細胞に類似した細胞からなり、免疫染色で pepsinogen- I and/or  $H^+/K^+$ -ATPase陽性の場合に胃底腺型胃癌、pepsinogen- I and/or  $H^+/K^+$ -ATPaseに加え、MUC5AC陽性の場合に胃底腺粘膜型胃癌と定義される。

# 胃底腺型胃癌の内視鏡的特徴

- 発生部位は胃体上部から中部に多いとされる。
- 肉眼型には
  - ①白色調・隆起型
  - ②発赤調・隆起型
  - ③白色調・平坦/陥凹型
  - ④発赤調・平坦/陥凹型の4つに分類される。

# 胃底腺型胃癌の内視鏡的特徴

## ■ 通常白色光観察では

- ①SMT様の隆起性病変
- ②褪色调・白色調
- ③拡張した樹枝状の血管
- ④背景粘膜に萎縮性変化を認めない

の4つの所見が挙げられる。



# 胃底腺型胃癌の内視鏡的特徴

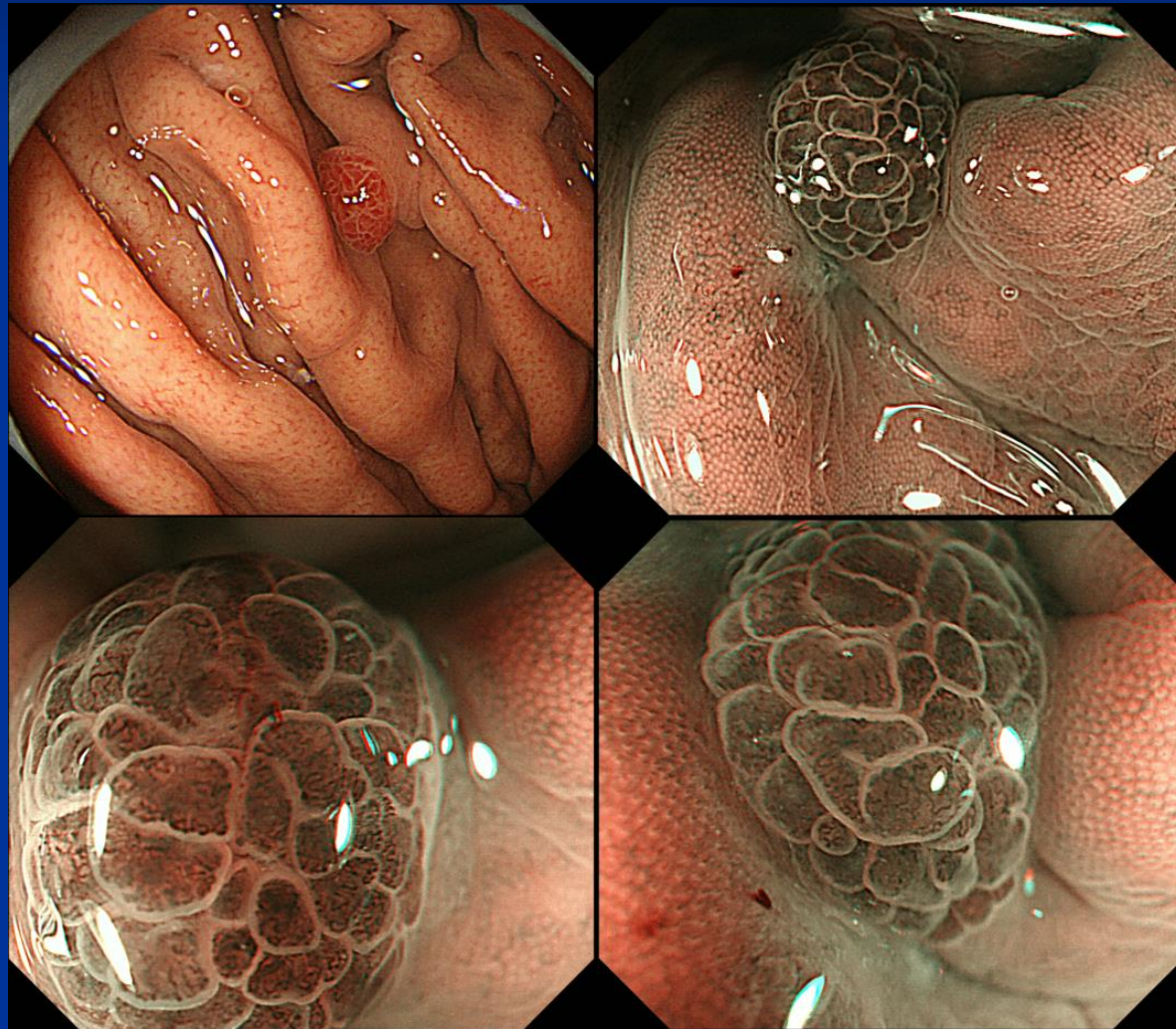
## ■ NBI拡大観察では

- ①明瞭な Demarcation Line なし
  - ②腺開口部の開大
  - ③窩間部の開大
  - ④ irregularity に乏しい微小血管
- の4つの所見が挙げられる。

# 胃底腺型胃癌の内視鏡的特徴

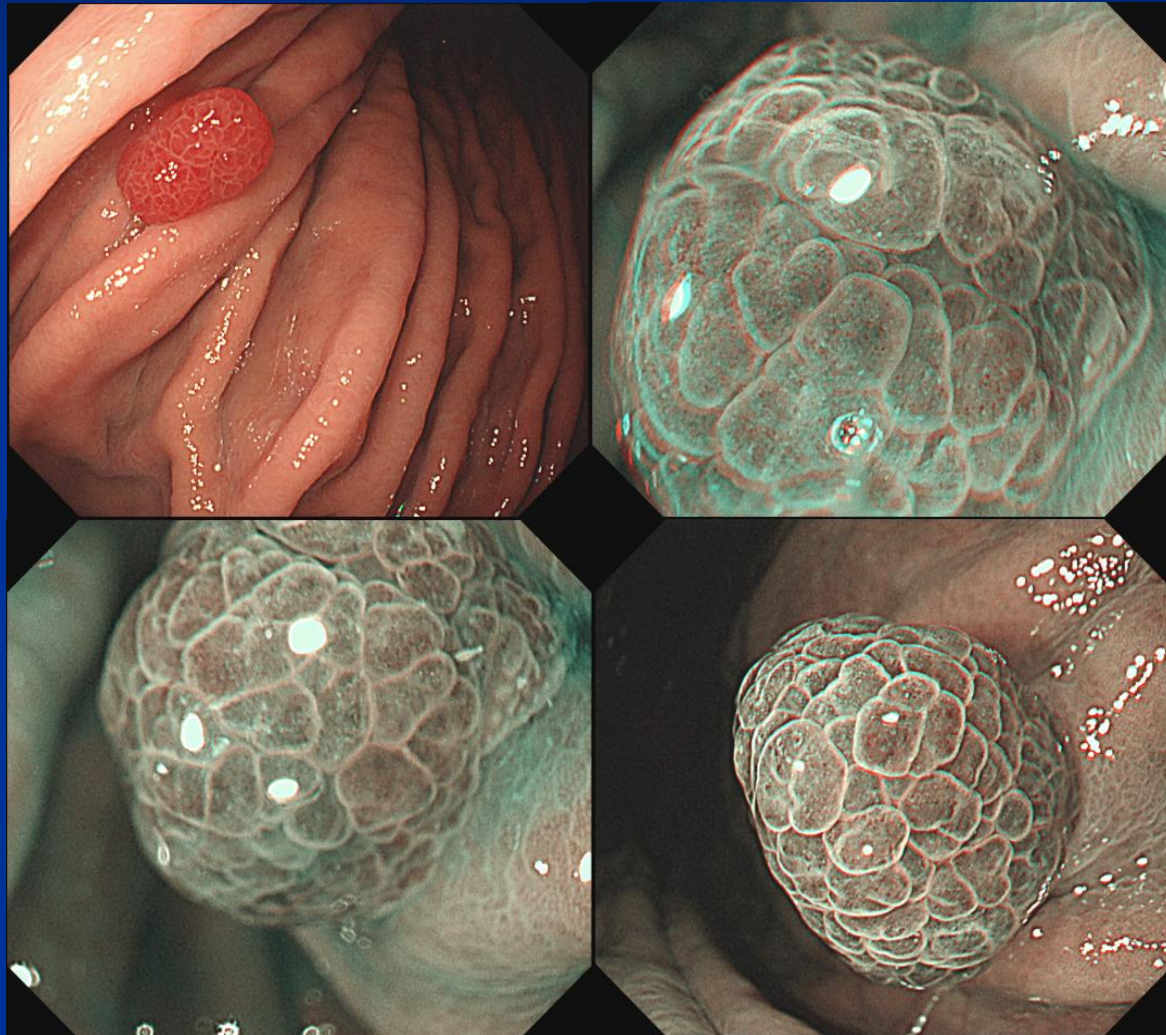
- 本症例のような発赤調・隆起型の場合、通常白色光では樹枝状の拡張血管を認めないことが多いが、境界は色調により明瞭とされる。
- またNBI拡大観察では、腺開口部の開大を示す症例は少なく、比較的厚みのある弧状・多角形の大  
小不同の腺窩辺縁上皮で構築され、開大した窩間部内にirregularityに乏しい微小血管を認めるとされる。

# 参考: Fundic gland polyp with dysplasia





# 参考：foveolar-type dysplasia/adenoma



# 総括

- 3病変同時多発した胃底腺型胃癌の1例を経験した。
- HP除菌により今後胃癌の総数自体は減少し、相対的にHP未感染胃癌が増加すると考えられる。そのため、HP未感染胃癌の1つである胃底腺型胃癌の特徴について、より認識されることが重要になっていくと考えられる。